

縮減社会を生き抜き、あきたの未来を創造する新たな農業高校成長モデルの研究開発

～地域定住人材の育成を目指したKANANOスタイル農業高校改革プロジェクト～

【研究開発の背景】

秋田県は超少子高齢、人口減少県であり、世界をはじめ日本の最重要課題のフロントランナーでもある。地域との協働体制による地域再生・農業改革を5学科で体現するプログラムの構築が、研究開発の背景である。

◆2020年全国平均高齢化率29%⇒秋田県38% ◆2040年秋田県の高齢化率予測50%⇒「2040年問題」

【目指す生徒像】

縮減社会に対応した「あきた型農業高校成長モデル」の開発を通じて農業関連産業を変革することができる人材の育成。あきたの未来を創造し、持続可能な地域社会を支えるソーシャルキャピタル(協調行動が作りだす社会関係資本)の構築や、Society 5.0に対応できる社会の実現に向けて、自らの意思で地域マネジメントに貢献する高度職業人の育成。

- 金農コンソーシアムの構築(8つの関係機関で構成)
 - ①秋田市 ②潟上市 ③大潟村 ④秋田県産業教育振興会 ⑤秋田大学 ⑥秋田県立大学 ⑦秋田県教育委員会 ⑧本校
- 金農コンソーシアムへの支援・配置
 - ①カリキュラム開発等専門家(秋田県農業研修センター)
 - ②地域協働学習実施支援員(公社法人秋田県農業公社)
- 研究推進に向けた校内推進体制
 - ①研究開発推進委員 ②教育課程委員会 ③農業部会
- 学校設定科目「**地域創生論**」「**社会起業家実践**」の実施



「運営指導委員会」による事業への指導助言



令和4年度 第1回運営指導委員会
令和4年6月27日(月)



全国産業教育フェア 文部科学省
事例発表会 令和4年10月15日(土)



研究成果発表会 基調講演 富士大学
学長 岡田秀二氏 令和4年12月6日(火)

「KPI」による金農オリジナル学習評価法(可視化された指導と評価の一体化)
高校魅力化評価、ルーブリック、金農版GKH(Gross Kanano Happiness)等により評価・検証

身に付けた
資質能力

- ①改革する力 ②思考力 ③人間関係構築力 ④実践力
- ⑤創造力・将来設計力 ⑥先見力 ⑦マネジメント力 ⑧多文化協働力

カリキュラム・マネジメント

カリキュラム2年次
発展(About For)

カリキュラム3年次
応用と実践(For With)

到達目標「課題発見・解決」
関係科目「課題研究」「地域
創生論(学校設定科目)」他

到達目標「地域創造実践」
関係科目「課題研究」「社会
起業家実践(学校設定科目)」他

成長モデル研究領域

- 1 グローバルスタディ 領域
- 2 第4次産業・農業革命 領域
- 3 ソーシャルスキルアップ 領域
- 4 地域一体型農業コミュニティ形成 領域

総合的な探究の時間(課題研究)研究課題名 ※抜粋
・廃棄野菜の利用加工に関する研究(B)、生育するための環境と天候に関する研究(B)、八郎潟干拓の歴史的経緯と水産資源の研究(E)、酒粕の二次利用に関する研究(F)、持続可能な地域づくりに関する研究(L)、県産農産物のドライ加工と商品化探究の取り組みに関する研究(H) etc

令和4年度の取組内容



現場見学(玉川ダム)

リンドウ農家研修

京都造園インターン

【各学科における取組内容】※各学科の取組から抜粋
B 生物資源科:長期畜産インターン,農家研修,HACCP講習
E 環境土木科:現場視察,測量技術講習,ICT活用研修
F 食品流通科:秋田県立大学とのICTスマート農業研修
L 造園緑地科:京都造園インターン,SDGsワークショップ,現場視察
H 生活科学科:梨商品化,ハーブ活用研修,ドライ食品加工

【取組状況(実績)】※目標設定シートより抜粋

- 産業界や大学、研究機関と連携した事業所数:31箇所
- 講師を招聘し、講義や講演等を実施した回数:23回
- 本事業を活用して研修に参加した生徒の割合:100%
- 就職希望者の中で県内就職をした生徒の割合:94%

成果と課題・生徒の変容

○91%の生徒が地域のために役立ちたいと考え、将来地域に定住し、地域で働きたいとの認識が80%を超えている。
○この3年間で自分が「社会を変えられるかもしれない」という社会変革の認識に加え自己肯定感が70%以上に達している。
▲地域の実情や実態を捉えた地域連携型カリキュラムへの改善
▲コンソーシアムの堅持と人的ネットワークの活用・組織連携

